

# ◆公園・緑地、校庭、駐車場、水田、ため池等との連携

## ■ 現況と課題

### ■ 現況

- 令和元年東日本台風の降雨により、河川・下水道の未整備区域での浸水に加え、一級河川田川や姿川が河川溢水し、市内で甚大な被害が発生した。

### ■ 課題

- 令和元年東日本台風のような降雨に対して、河川からの溢水等を軽減させることが求められている。
- 近年における市街地の都市化や土地利用の変化に対応するため、更なる雨水流出抑制対策が必要である。

【市内での被災状況】

項目	被害件数
床上浸水	5 6 3 件
床下浸水	2 7 4 件
河川溢水	2 2 件
道路冠水	1 6 1 件



## ■ 対策検討の経緯と計画の考え方

### ■ 経緯

- 令和元年10月 東日本台風による被災
- 令和2年2月 「総合治水・雨水対策基本方針」の策定
- 令和3年～ 「(仮称)総合治水・雨水対策推進計画」の策定検討  
(※現在、策定中)

### ■ 基本方針の考え方

- 河川・下水道整備による、雨水を「流す」取組に加え、新たに雨水を貯留・浸透させる「貯める」取組、被害軽減を図るための「備える」取組の3つの柱に基づき、総合的に取り組む。
- 民有地における雨水貯留施設の設置、田んぼダムなどの「貯める」取組や避難訓練の実施など「備える」取組といった共助の取組を含め、市民と協働し雨水対策を実施する。
- 基本方針に基づき、令和2年7月までに効果を発揮できる取組について先行事業として着手した。

## ■ 浸水対策の概要

### ■ 対策の概要

- 基本方針に基づき、東日本台風による浸水被害を早期に軽減するよう、令和2年7月までに効果を発揮できる事業に早期に着手するとともに、市民自ら雨水流出抑制に取り組む意識の醸成に繋がる事業を実施した。

### 【主な取組】

- 公園等への雨水貯留  
⇒ 公園や学校等の公共施設において、貯留・浸透施設を整備し、貯留量約8,700m<sup>3</sup>を確保した。
- 田んぼダム  
⇒ 土地改良区と連携し、現地説明会やアンケート等を実施するなど、多くの農業者の理解と協力を得たことにより、田んぼダム実施面積180ha、貯留量約22万m<sup>3</sup>を確保した。
- 市街化区域の民有地における貯留・浸透施設の設置  
⇒ 設置費補助金制度を拡充し、民間事業者や集合住宅、駐車場等への雨水貯留タンク、雨水浸透ます、浸透トレンチの設置を促進した。

### ■ 結果

- 公園等への雨水貯留や田んぼダム、その他の事業を含めて、当初目標としていた貯留量20万m<sup>3</sup>を上回る約33万m<sup>3</sup>の貯留量を確保した。

## ■ 浸水対策の効果

### ■ 対策の効果

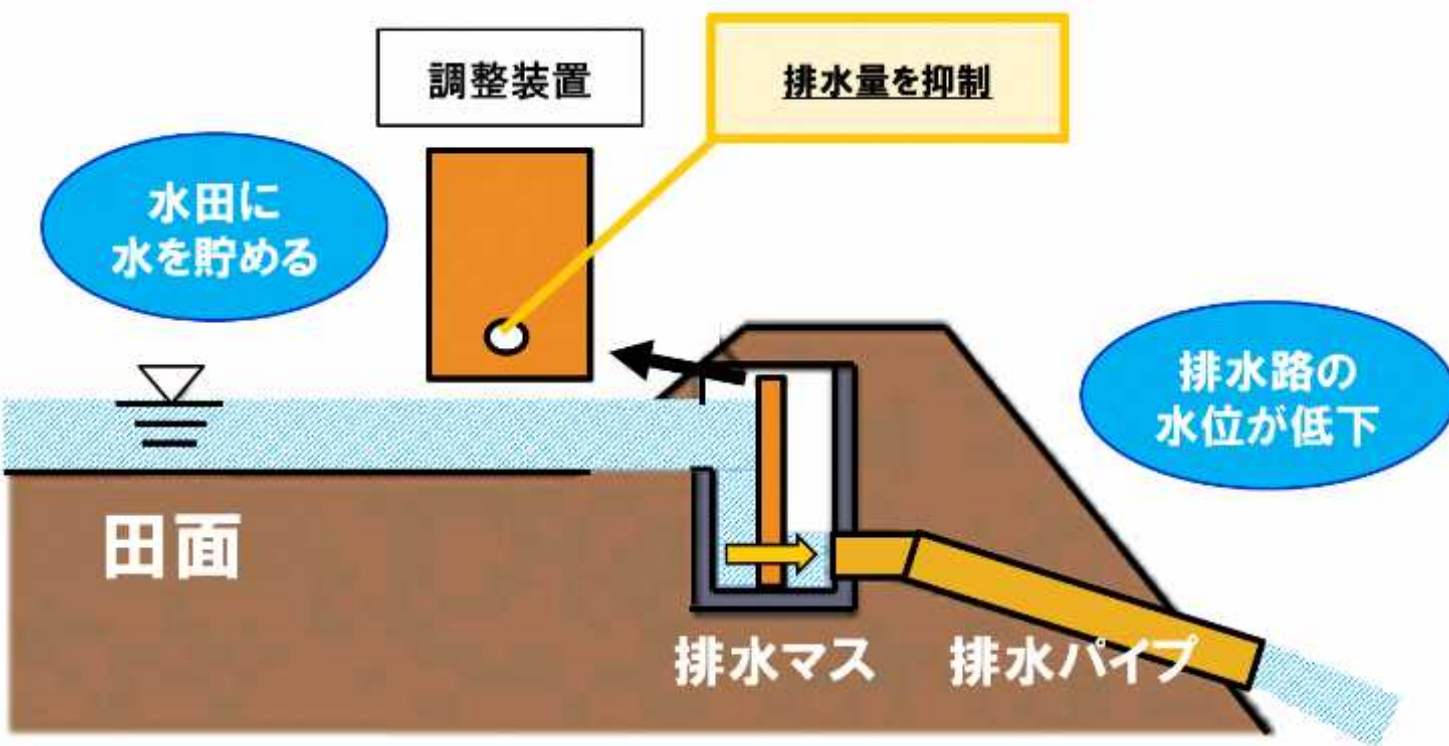
- 一級河川田川流域において、令和元年東日本台風時の浸水面積約150haに対して、浸水深を最大5cm程度下げ、浸水面積を約10ha縮小できることを確認した。
- 公園等の公共施設における貯留・浸透施設は、局所的降雨等の短時間降雨に対して雨水流出抑制効果が高いことを確認した。
- 田んぼダムは、台風など長時間降雨に対し雨水流出抑制効果が高いことを確認した。

### ■ 今後の進め方

- 先行事業の評価や河川特性を踏まえ、「(仮称)総合治水・雨水対策推進計画」を策定し、計画に基づき、公園等の雨水貯留や田んぼダム等の対策を推進していく。

■ 浸水対策 対策状況写真等

・ 田んぼダムの構造



・ マス設置による田んぼダムの実施

